

令和4年6月23日
特定非営利活動法人 千葉自然学校

NPO 法人千葉自然学校 令和3年度 事業報告

はじめに

理事長 久保田康雄

令和3年度もまた、新型コロナウイルスに振り回された1年でありました。そのような状況の中でも、理事・会員の皆様方には、NPO 法人千葉自然学校の運営にご尽力いただき、感謝申し上げます。

令和3年5月に新型コロナウイルスの感染のピークにあった第4波、東京オリンピックが行われた8月の第5波、そして、今年2月の第6波は、未だに尾を引いている状況です。また、この1年の間に2回の緊急事態宣言とまん延防止等重点措置などの感染防止対策が出されたところです。このような中で千葉自然学校は、自然体験事業、受託事業、指定管理事業など、感染防止対策や人数制限等を行いながら事業を実施してまいりました。では、令和3年度のNPO 法人千葉自然学校の事業の報告をさせていただきます。

令和3年度のNPO 法人千葉自然学校の大きな出来事は、千葉県から指定管理を受けている大房岬自然公園の指定管理委託期間が終了し、再度委託申請を行う年でありました。次期指定管理者に応募すべく、さまざまな書類を提出し、事業計画についてのプレゼンテーションに臨みました。結果は、千葉県議会の決議を経て、令和8年度までNPO 法人千葉自然学校が大房岬自然公園の指定管理者に決定されました。このことは、千葉自然学校にとって大きな意味を持ちます。南房総市大房岬自然の家と大房岬自然公園は、異なる指定管理委託元ですが、2つの施設が「チーム大房」として連携・協働することで、より多くの利用者に多様な活動を効率よく提供できるようになります。今後とも両施設の運営についてご協力よろしく願いいたします。

NPO 法人千葉自然学校の事業は、①学校団体やスポーツ・文化団体等が利用する君津亀山青少年自然の家、大房岬自然の家、大房岬自然公園など、県や市から委託される「指定管理事業」②企業や行政から依頼される「受託事業」③千葉自然学校が主催して実施している「自然体験事業」があります。そのほか、幼児からシニア世代まで幅広い人々を対象に事業を展開しています。

令和元年度は、コロナの影響をほとんど受けていない年でありましたので、令和元年度との比較をしてみると、令和3年度の状況が見えてくると思います。「指定管理事業」は、宿泊定員を半分に設定している上、キャンセルもあ

り、君津亀山青少年自然の家での宿泊利用者数は、令和元年度比較で46%（15%）に留まり、大房岬自然の家でも66%（22%）となっています。「受託事業」は企業や行政からの依頼が少しずつ増えてきている状況ですが、まだまだ少なく、売り上げは令和元年度比較では、50%（36%）という状況です。「自然体験事業」では、実施事業数で見ると、令和元年度と比較すると62%（60%）という状況であります。いずれの事業もまだまだコロナ前の状況に戻ってはいませんが、今後さらに集客や事業の開発等、努力する必要があると思います。※（ ）内の数字は、令和元年度と令和2年度との比較

さて、そんな状況でありました令和3年度の決算ですが、法人全体で見ると、経常収支差額が僅かではありますが、黒字でありました。事業収入が減少しているところですが、事業数も減っているため支出額も減少しております。また、国の雇用調整助成金や市の補助金等については、令和2年度の申請額には至っていません。しかし、事業に多少改善がみられましたので、全体として僅かな黒字という決算結果となりました。令和4年度は、事業運営についてさらなる改善を行い、事業収入を増やしていく所存であります。

最後に、千葉自然学校のミッションにもありますが、体験活動を通じネットワークをさらに充実し、地域の活性化を目指してゆきたいと思っております。今後とも、理事や会員の皆様方には様々な場面で、ご支援とご協力を賜ることになると思っておりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

指定管理 千葉県立君津亀山青少年自然の家

令和 3 年度の利用者数は前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、20,334 名と例年の数値(43,000～45,000 名)よりも大きく下回りました。宿泊者数においても 7,368 名と例年の数値(20,000～22,000 名)の半分以下の数字となりました。一方でほとんどの学校行事等が中止となった昨年度と比べ、今年度は学校の宿泊行事が中止ではなく延期をし、秋や冬に実施する学校団体が多かったため、昨年度と比べると利用は増加しました。

現在もまだ密をさけるため、定員の半分程度を予約上限としているため、令和 4 年度の予約人数も多いとは言えません。今後社会の状況に合わせて、予約上限の撤廃などを検討していきます。

利用状況 目標達成率 平均 91.1%

■令和 3 年度実績 (令和 2 年度実績)

1. 利用団体数 367 団体 (208 団体)
2. 利用者数《延べ》 20,334 名 (8,284 名)
3. 宿泊者数《人/泊》 7,368 名 (2,342 名)
4. 利用者満足度 99% (99%)
5. 主催事業 参加者満足度 97%
事業数 37 本 (27 本)
参加者数 1,302 名 (855 名)



主催事業「6 歳になったら机をつくろう」



主催事業「石窯 de お絵描きピザづくり」

○その他



児童養護施設との共催事業
「踊り沢リパートレッキング」



環境教育関東ミーティング 2021
当施設を会場として開催

指定管理 南房総市大房岬自然の家

新型コロナウイルス感染拡大の影響を多少回復できた年度となりました。しかしながら、例年の利用実績から見れば 6 割程度の回復です。安定的な経営と赤字の削減が大きな課題である当施設にとって、収入源の新たな柱の構築は喫緊の課題です。今後、自然体験のニーズは更に高まると考えられます。新規エリアからの新規顧客の声に応えるべく、受け入れ態勢の構築と人材の育成に更に取り組めます。SDGs をテーマにした体験のオーダーが増えています。教育旅行、企業研修等を受け入れるべくプログラム開発を続けます。

■令和3年度実績（令和2年度実績）

1. 利用団体数 183団体（183団体）
2. 利用者数《延べ》 20,287名（9,879名）
3. 宿泊者数《人/泊》 10,154名（3,379名）
4. 主催事業 35事業 398名（32事業 405名）
5. 地域内受託事業 4事業（南房総市観光協会、南房総市立富山中学校等）



「コーステアリング」一般・家族対象
荒々しい断崖の美しい風景を冒険的に堪能！



「ツリーイング」子ども対象
ハーネスとザイルを使って樹上の世界へ！



「地域アウトドア事業者座談会」
南房総エリアで活躍するアウトドア事業者
とこれからの地域について意見交換



「富山中学校 海の自然体験」
修学旅行が中止になった地元中学生への
自然体験プログラムの提供。

指定管理 千葉県立大房岬自然公園

令和3年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響を大きく受けた前年に比べ、来園者、キャンプ場利用者の数が回復してきました。学校の遠足や体験学習での公園利用も再開され、園内に活気が戻ってきた印象です。

コロナ禍で野外での活動のニーズが高まりをみせ、主催事業などは予約が満員になるものも増えてきました。ファミリーキャンプ教室など人気のある事業は増発回を打つなど、利用者のニーズに応えるべく事業運営を行って参りました。また、宿泊行事ができなくなった学校が日帰りでキャンプ場を利用するといった、これまでにない利用の仕方も増えてきました。

感染状況や利用者のニーズなど刻々と変わる状況をしっかりと見極め、管理運営に努めて参ります。

■令和3年度実績（令和2年度実績）

1. 来園者数	117,725名（89,933名）
2. キャンプ場利用数	4,019張 6,046名（2,797張 4,118名）
3. ビジターセンター利用者数	9,531名（7,560名）
4. 主催事業	23事業 548名（15事業 422名）



「主催事業 ファミリーキャンプ教室」
人気のため増発回を開催



「主催事業 大房忍者修行」
子ども達に人気の定番イベント



「団体向け夜のガイドツアー」
依頼があれば要望に合わせた内容の
ガイドツアーを実施



「キャンプ場利用」
キャンプの利用は前年を大きく上回る

受託事業

新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた前年度に比べ、対策方法が検討できるようになったこともあり、ある程度回復できた1年となりました。

まん延防止措置がとられると中止となる事業もありましたが、コロナ禍でも実施するために、「他県で実施していた教育旅行を千葉県で実施したい」、「宿泊を日帰りに変更して体験だけでも」といった学校関係のご相談を多くいただき、千葉自然学校のネットワーク力を活かした、グループ別体験活動を提案する機会を得ることができました。

また、コロナ禍の対策として相談を受け、千葉県で体験を実施した教育旅行でしたが、会員団体や地域の体験団体の皆様の協力のもと、学校が求める少人数制の探究活動にも対応でき、大変良い評価をいただく形となりました。

今後も、ネットワークを活かし、魅力ある地域の方々と協働しながら、社会のニーズに対応できる事業を展開してきたいと思っております。

■令和3年度実績(令和2年度実績)

1. 事業数	17事業 (12事業)
	中止となった事業・・・15 事業(20 事業)
2. 委託元別	企業 9 事業(6 事業)
	学校 4 事業(1 事業)
	民間団体 0 事業(0 事業)
	行政関係 4 事業(5 事業)
3. ジャンル別	コーディネート 2 事業(1 事業)
	体験活動 6 事業(4 事業)
	人材育成 5 事業(3 事業)
	CSR 事業 3 事業(3 事業)
	地域活性 1 事業(1 事業)



私立高校1年生チームビルディング
@大房岬、君津亀山青少年自然の家
(東武トップツアーズ(株))



ハウス「食と農と環境の体験教室」
～初のオンライン開催～
協力:佐倉みどりネット
(ハウス食品グループ本社(株))



海と日本プロジェクト in 千葉県
協力:たてやま・海辺の鑑定団
(千葉テレビ放送(株)、(株)PLUS-Y)



「環境教育プログラム支援」
協力:大山千枚田保存会
(コスモ石油千葉製油所)



「中山間ふるさと活性化チャレンジ事業」
スタディツアー@館山バイオニアファーム 教職員研修@猟師工房ランド
(千葉県農林水産部 農地・農村振興課)



自然体験事業 千葉自主事業

スタッフの専門性、地域資源・人材・こだわりを活かした新規プログラムを加え、事業を展開しました。引き続きコロナ過での参加人数を抑えた募集でありました。しかし、昨年度より参加者数も増え、またリピーターも増加し、改めて社会的に自然体験活動へのニーズが向上していると思われます。

今後の課題として、新しい生活様式に合わせた事業展開を考慮し、参加者や社会のニーズに合った自然体験活動の実施をしていきたいと思ひます。

■令和3年度実績（令和2年度実績）

- | | |
|---------------|-----------------------|
| 1. 年間事業本数 | 23本 ※11本催行中止（27本） △4本 |
| 2. 年間稼働日数 | 50日(49日) 1日 |
| 3. 年間収益率 | 39.1%(41.5%) △2.4% |
| 4. 年間参加者数《延べ》 | 774名(618名) 156名 |
- *新規 97名(165名)/リピーター215名(158名)/リピーター率 68%(48%)

「人気事業は…」

子ども対象:スノーあそベンチャー／昆虫博士キャンプ／アウトドアキッズキャンプ

親子対象:親子カヌーツーリング



「カヌー&フィッシングキャンプ」 「スーパーマリンキャンプ」

「星空キャンプ」



「秋のガチ釣りキャンプ」

「オーバーナイトハイク」

「スノーあそベンチャー」

「今後の展開…」

スタッフの専門性を活かしたアクティビティーや地域・人材を活用した事業展開を継続していきます。子ども対象プログラムは、年齢対象にあわせた(特に高学年～中学生、一般、シニア層プログラムの開発)自然体験活動を実施いたします。

自然体験事業 ヤックス自然学校



前年に引き続き感染症対策を講じ、より安心安全な運営を心掛け、年間事業本数、参加者数共にコロナ禍前の運営状況に近づけることが出来た年となりました。感染症対策として、全てのスタッフ、参加者には出発当日に抗原検査を実施。

コロナ禍だからこそ、野外で子どもの元気を発散する場(自然体験活動)を提供し、当校運営に理解のあるリピーター、更には新規参加者を獲得した年となりました。

■令和3年度実績（令和2年度実績）

1. 年間事業本数 50本(38本) +12本
2. 年間稼働日数 113日(90日) +23日
3. 年間収益率 30%(35%) △5%
4. 年間参加者数《延べ》 2,766名(1,487名) +1,279名
*新規 462名(152名)/リピーター 688名(425名)/リピーター率 59%(74%)

「ヤックス自然学校らしい事業」

子ども(幼児～中学生)とファミリーを対象に年間を通じて、四季折々の体験プログラムを提供しています。

また、千葉大学教育学部を中心としたキャンプリーダーの育成にも力を入れ、リーダートレーニングの実施や現場研修を積ませることで、安心安全で質の高いプログラムの提供を目指しています。



「サマー 緑の忍者キャンプ」



「サマー 1week 探検村」



「GO!GO!いちごキャンプ」



「GWファミリーキャンプ教室」



「ホームステイ@古民家ろくすけ」



「スキーキャンプ」

「人気事業・・・」

週末 1泊 2日 「ホームステイ、GO!GO!いちごキャンプ 等」

長期休み 1泊～6泊 「緑の忍者キャンプ、1week 探検村、スキーキャンプ 等」

ファミリー 「GW ファミリーキャンプ教室、秋の週末ファミリーキャンプ 等」

地域協働部 ちば・体験活動ネットワーク事業

当事業では、会員相互を図るため、千葉県の実験活動を発展させるために以下のことを実施。

■ちばアウトドアフォーラム2021の開催(延期)

コロナ禍の中、「リアルじゃなきゃ伝わらない！」をテーマに再度の計画を立てましたが、まん延防止等重点措置が発令されたため、リアルにこだわり2022年度秋以降の開催に延期となりました。

○開催日程 2022年2月5日(土)～2月6日(日)1泊2日または日帰り

○開催場所 南房総市大房岬自然の家および千葉県立大房岬自然公園

○開催内容 基調講演「コロナの向こうにある自然体験」

桜井義維英氏(走林社中 主宰)

特別講演「獣害をどう子ども達に伝えるか」

原田祐介氏(猟師工房 代表)

○プレゼン

「アウトドア×海洋」 銚子海洋研究所 宮内幸雄

「アウトドア×観光」 南房総市観光協会 吉田光久

「アウトドア×竹」 木更津竹工房竹星 石山好美

「アウトドア×サイクルツーリズム」 HEGURI HUB 瀬戸川賢二

「アウトドア×ウミガメの保護活動」 エバーラスティングネイチャー

田中真一

「アウトドア×潜在層マーケティング」 BREEZE Family Camp

金子信也

「アウトドア×SDGs」 環境パートナーシップちば 桑波田和子

「アウトドア×学校教育」 南房総市立富山学園 篠原準

○ワークショップ アウトドア×〇〇をテーマに5つのワークショップを開催

ちば アウトドア フォーラム 2021

2/5(土)
～2/6(日)

1泊2日または日帰り
南房総市大房岬自然の家
千葉県立大房岬自然公園

～リアルじゃなきゃ伝わらない！～

千葉県の自然を体験活動の手段とする体験、観光、教育、行政、環境、農林漁業、芸術、防災等の関係者が一堂に会し、情報を交換し、交流を図ることで、立場を超えて、異がりや新しい価値や仕事を創造することを目的とする。それがちばアウトドアフォーラムです。

参加費用

全日程 8,000円
宿泊費:1日目夕食、2日目朝食、昼食付き

1泊のみ 6,000円
宿泊費:1日目夕食付き、2日目朝食、昼食なし

日帰りA 2,000円
どちらか1日参加の場合、食事なし。

日帰りB 3,000円
両日ともに日帰り参加の場合、食事なし。

申込方法は千葉県自然学校HPをご覧ください。

基調講演 「コロナの向こうにある自然体験」
桜井義維英氏 (走林社中 主宰)

特別講演 「獣害をどう子ども達に伝えるか」
原田祐介氏 (猟師工房 代表)

プレゼンテーション 10分×8タイトル

情報交換会

ワークショップ 180分×6タイトル

メーカー・企業の出展
参加者の活動展示 etc

主催:ちばアウトドアフォーラム2021実行委員会
実行委員長:久保田健治(NPO法人千葉県自然学校)
幹事:金子信也(千葉県自然学校)、田中真一(千葉県自然学校)、原田祐介(猟師工房)、原田祐介(NPO法人千葉県自然学校)、原田祐介(NPO法人千葉県自然学校)、原田祐介(NPO法人千葉県自然学校)
協賛:CMAC、株式会社千葉日報社、有限会社南房総日本新聞社
※厳正不問 申込中 申込中

基調講演 2/5(土)13:30～14:30
「コロナの向こうにある自然体験」 桜井義維英氏 (走林社中 主宰)

1967年3月6日生まれ。1979年日本体育大学社会体育学科卒業。1980年交通通運課員会入会。1983年自然学校を志願し船長としてに設立。副校長に就任。2007年、自然学校活動推進協議会事務局長。2020年に、千葉県自然学校協会理事の千葉県立大房岬自然公園の長。2011年には国立赤城青少年交流の家所長。2014年11月からあしなが育英会事務局長を務める。2015年7月に山梨県北杜市に住まいを移し、自然体験教育の若手リーダーを育てるために「走林社中」を主宰している。

特別講演 2/5(土)14:45～15:15
「獣害をどう子ども達に伝えるか」 原田祐介氏 (猟師工房 代表)

「猟師工房」代表。1972年埼玉県生まれ。高校卒業後、外資系アパレルメーカーに就職。2004年に猟犬の訓練に参加し、狩猟の世界に飛び込む。2013年、現職の人生を職業訓練として生きる改善を認め、山を知るために秋に父ある林業で職歴27年を以てして専業主業職に転職。2015年、工房を「猟師工房」とし、狩猟やシジミに関わるさまざまな取り組みに着手。2019年には鳥獣被害が深刻な千葉県津田市の鳥獣(日本赤松)学校を創設し、鳥獣工学講座をオープン。

プレゼンテーション 2/5(土)15:30～17:45 10分間で届けます。アウトドア×〇〇!
千葉県内で活動する方がアウトドア×〇〇をテーマに活動紹介や想いを発表します。

- ・アウトドア×海洋 宮内幸雄(銚子海洋研究所)
- ・アウトドア×観光 吉田光久(南房総市観光協会)
- ・アウトドア×竹 石山好美(木更津竹工房竹星)
- ・アウトドア×サイクルツーリズム 瀬戸川賢二(HEGURI HUB)
- ・アウトドア×ウミガメの保護活動 田中真一(エバーラスティングネイチャー) ※厳正不問 収録あり
- ・アウトドア×潜在層マーケティング 金子信也(BREEZE Family Camp)
- ・アウトドア×SDGs 桑波田和子(環境パートナーシップちば)
- ・アウトドア×学校教育 篠原準(南房総市立富山学園)

ワークショップ 2/6(日) 9:00～12:00
アウトドア×〇〇をテーマにしたワークショップを開催!
※参加はお1人様1つのみとなります。
※申込みは先着順となります。ご了承ください。
※申込、参加費が必要なワークショップもあります。

- WS-1 アウトドア×獣害×シジミ 「インシンの解体を遊んだ食育」 原田祐介 参加費:3,000円 定員 20人
- WS-2 アウトドア×芸術 「一期一会の喫茶会(きつきこ)」 金子信也 参加費:1,000円 定員 5人
- WS-3 アウトドア×海辺のSDGs JOLA2019ファンタジストが贈る「ビーチコンクラーレ」 金子信也 参加費:500円 定員 20人
- WS-4 アウトドア×事業化 「よろず相談」 原田祐介 参加費:無料 定員 10人
- WS-5 アウトドア×森の再生 セブンの海の森づくり 「沖ノ島・50年後の森の再生へ」 金子信也 参加費:無料 定員 10人

夕食 & 情報交換会 2/5(土)18:30～
リアル開催! アウトドア×〇〇で集まった人々との出会い、共有、コラボと盛り上げの夜も楽しもう。あの人とじっくり話したいし、質問やネットワーク、情報、相談など様々な想いが形になる場所にもしよう。

【お問合せ】 申込みは専用サイトから ↓
NPO法人千葉県自然学校
メール:info@chiba-ns.net
HP:https://www.chiba-ns.net/
電話:043(227)7103
※申込み方法は千葉県自然学校HPをご覧ください。

■会員校との連携

県内の体験活動団体の相談窓口としての役割を担い、必要に応じた対応、助言を行なう。

また、会員校のSNS記事(活動報告・案内)をリアルタイムでシェアしました。

OSNS シェア実績(2021年12月1日～2022年3月31日 4ヶ月間)

大山千枚田保存会 85記事、ワイズスノー&アウトドアスクール 22記事、銚子海洋研究所 32記事、ちば里山センター 24記事、たてやま・海辺の鑑定団 9記事、LiveStock 6記事、さんむアクションミュージアム、森のようちえはっぴー、ヤックス自然学校 1記事、理事 2記事、その他 3記事

1. 北総エリア

○ニュースレター 会員校掲載

さんむアクションミュージアム、一般財団法人千葉県観光公社事業サポート

○会員校巡り

ピーちゃんクラブ、さんむアクションミュージアム、銚子海洋研究所

○受託事業

銚子海洋研究所 9月18日(土)「海と日本プロジェクト」にて小学生16名を対象に海洋生物の生態や海洋ゴミの現状などを話してもらった。

NPO法人たてやま・海辺の鑑定団 9月25日(土)に同プロジェクトにて指導。

○その他

千葉県伝統郷土料理研究会 テレビ朝日食彩の王国にて講師依頼をしたが、撮影会社でコロナ陽性者が出たため中止)



親子キャンプ
さんむアクションミュージアム



海と日本プロジェクト
銚子海洋研究所

2. 上総エリア

ニュースレター、Facebookなどで情報発信ツール紹介、ならびに情報収集、掲載募集(掲載募集に関する書類を送付・ヒアリング:ニュースレター夏号、秋号の発刊準備の時期に)

○ニュースレター 会員校掲載

特定非営利活動法人ちば里山センター(秋号)、森林塾かずさの森(夏号)

○千葉県立君津亀山青少年自然の家 アクティビティ集にプログラム掲載
森林塾かずさの森、Live Stock、上総自然学校、NPO法人大山千枚田保存会

○人材派遣、依頼

【人材派遣】

NPO 法人大山千枚田保存会 学校団体向け生き物観察 庄司

NPO 法人大山千枚田保存会 大山千枚田開催シンポジウム「コロナ禍での今後の都市農村交流の在り方」事例報告 神保

【人材依頼】

NPO法人大山千枚田保存会 千葉県立君津亀山青少年自然の家 主催事業

NPO法人大山千枚田保存会 千葉自主事業 昆虫博士キャンプ

NPO法人大山千枚田保存会 関東環境教育ミーティング 分科会

○その他

NPO法人大山千枚田保存会 石田三示理事長 千葉県立君津亀山青少年自然の家 運営委員会委員

NPO法人大山千枚田保存会 千葉県立君津亀山青少年自然の家 食堂で使用する米の発注(地産地消)



関東環境教育ミーティング 分科会
NPO法人大山千枚田保存会 浅田事務局長

3. 南房総エリア

ニュースレターの掲載を機会に会員校とお会いする、研修会の実施でお会いするなど、定期的に機会を作ってコミュニケーションを図ることができた。一方で、連携先に偏りがある、会員校と非会員校との連携の違いが明確でないなどの今後の課題もある。

○ニュースレター 会員校掲載

千倉オレンジセンター(春号)、白浜オーシャンリゾート(夏号)、南房総市大房岬自然の家 アクティビティ集にプログラム掲載
株式会社ちば南房総、NPO法人たてやま・海辺の鑑定団

○人材派遣、依頼

【人材依頼】

NPO法人たてやま・海辺の鑑定団 海辺の達人養成講座
NPO法人たてやま・海辺の鑑定団 SDGsプログラム開発研修
NPO法人たてやま・海辺の鑑定団 土中環境ワークショップ
NPO法人たてやま・海辺の鑑定団 アウトドア事業者連携会議
NPO法人たてやま・海辺の鑑定団 千葉自然学校 SDGs プログラム研修会
NPO法人たてやま・海辺の鑑定団 自然を守り伝える座談会など
一般社団法人森のようちえんはっぴー 土中環境ワークショップ
一般社団法人森のようちえんはっぴー 自然を守り伝える座談会など

○その他

南房総体験活動ネットワーク協議会 岩井民宿組合、千倉町民宿組合、NPO法人たてやま・海辺の鑑定団
プラネタリウム研修会 岩井民宿組合、千倉町民宿組合
雨天時の会場提供、オンラインミーティング操作練習サポート 一般社団法人森のようちえんはっぴー



岩井民宿組合、千倉町民宿組合
プラネタリウム研修会



NPO 法人たてやま・海辺の鑑定団
一般社団法人森のようちえんはっぴー
自然を守り伝える座談会

地域協働部 古民家ろくすけ事業プロジェクト

新型コロナウイルス感染拡大防止の中、拠点となる古民家ろくすけを補修・維持するとともに、事業を以下のように実施した。

1. 古民家ろくすけの企画・管理・運営ができる人材の育成。
シニアボランティアの育成(加工ボランティア、補修ボランティア)。
2. 農泊施設・ホームステイ施設としての利用の拡大。
コロナウイルス感染拡大防止のため、農泊は自粛、ホームステイは感染防止対策をとり、少人数で実施した。
3. 米作り等体験農園の普及と地域産物の加工・販売、郷土料理の普及。
ろくすけの会によるそら豆、枝豆、大豆栽培と収穫を実施した。



ろくすけの会
そら豆の作付け作業。収穫した大豆でろくすけ味噌の加工、販売。

4. フィルムコミッションの利用促進。
フジテレビ系どっきりグランプリ等で3回利用された。



5. 生きもの・環境保全活動の実施。

蛙、トンボ等希少植物・生物の環境保全を行うとともに、地元環境保全にも協力した。

6. 施設・設備の維持管理、補修の実施(母屋の屋根補修、長屋門屋根補強等)。

母屋前面西側屋根の補修を行った。



古民家ろくすけ
周辺環境整備カヤ刈り作業 母屋の屋根補修

7. 平群ツーリズム協議会と連携した地域活性化活動。

平群ツーリズム協議会は、コロナウイルス感染拡大防止の中、活動は縮小し、ろくすけの会の行う栽培活動の支援、ろくすけで利用する農産物の提供を行うとともに令和4年2月に千葉県が開催した「協働のまちづくりセミナー」で「地域・都市連携による平群地区コミュニティの活性化」について若林会長がオンラインで事例発表を行った。

8. 周辺環境整備と活用(棚田キャンプ場、萱場)

南房総市中山間ふるさと・水と土保全対策支援事業を活用して、耕作放棄されていた棚田の草刈りを行い、10月30, 31日「小さな里山集会」を開催し、棚田や里山の利用について体験する会を実施した。屋根補修用の茅場の保全も行った。



地域協働部 千葉シニア自然大学 第10期

令和3年度は、前年の日本をはじめ地球規模の新型コロナウイルス感染症流行のため、全ての講座を休講した後を受けての開講となりました。前年度に受講を申込んだ方々の多くは、一年間の休講にも拘わらずに、辞退することなく受講してくれました。そのお陰で、受講生数は、本科、専攻科(3コース)合わせて86名となりました。また、開講時期を感染状況が落ち着くのを確認するため5月中旬に遅らせることとしました。

講座の会場は、これまでの塚本大千葉ビルの使用休止のため、千葉駅周辺の公共施設を利用することとし、各講座の度に、検温、消毒、マスクの着用など感染防止対策を徹底しながら実施しました。お陰様で、この間一人の感染者を出すことなく、全ての講座を予定通り終了することが出来ました。

講座に対する受講生の評価は、各講座の度ごとにアンケート用紙を提出していただいておりますが、講師が熱心で、分かりやすく素晴らしいと、高い評価をいただくことが出来ました。また、この学びを通して、新しい仲間ができ、各期で自主的な活動が行われ、更に同窓の絆から各期の垣根を超えて、古民家ろくすけを拠点としたいろいろな活動が行われて来ています。

千葉シニア自然大学は、令和4年度に11年目を迎えました。この間、国が進める「働き方改革」などシニア世代を取り巻く環境は、大きく変化して来ました。そのため、千葉シニア自然大学も、受講生の時間的、経済的な負担の軽減を考えると共に、受講生アンケートの意見等を参考に、講座の大幅な見直しを行いました。

その結果、令和4年度の講座は、これまでの本科、専攻科(3コース)の内の本科を廃止し、「ちばの里山里海の自然講座」、「天文・地球(気象・地震・地質・生きもの)講座」、「自然と俳句講座」、「自然体験活動講座」の4コースに再編して、実施することとしました。



千葉シニア自然大学 授業風景

南房総市原岡海岸にて本科・タラソテラピー

市川市大町公園自然観察園にて自然観察会

地域協働部 体験農園 in 岩名

開園8年目も、コロナ禍から引き続き、需要の多い年となりました。

また、募集型イベント「畑の楽校」はまだ実施が難しいため、子ども体験用区画(2区画)、実演圃場区画(1区画)も利用者用区画に変更し、令和2年度の29区画から32区画に区画を増やす形をとりました。

コロナウイルス感染症対策としては、今年度も講師による野菜の特性や作付け方法の講習会は、1年目の利用者を基本参加とし、2年目以降の方は希望者のみというスタイルで少人数開催、利用者同士の交流イベントも中止となりました。

1. 体験農園の運営

○面積:3,199㎡

構成:体験農園(32区画/R2は29区画)、実演圃場、研修圃場

利用者数:32組

2. 講習会等の開催

○栽培講習会 年間21回

(新規利用者向け基礎講座2回、栽培講習会18回、メンテナンスデー1回)

○交流会 中止

○講師による病害虫に関する勉強会 1回

○みそ作り講座 中止

3. 親子農育イベント「畑の楽校」

新型コロナウイルス感染拡大防止対策により開催中止

4. 人材育成「千葉シニア自然大学」実習サポート

サツマイモ、ラッカセイを栽培するための研修圃場を提供



NPO法人佐倉みどりネット、地元農家
体験農園での講習会 座学・実演の様子